

私たちの会費が日本平和委員会と茨城県平和委員会の活動を支えています

## 土浦平和の会

ニュースNo. 165 2006年4月

発行 土浦平和の会

事務局 土浦市神立町2664-2

TEL 831-9122

[http://www.geocities.jp/ino011\\_jp/](http://www.geocities.jp/ino011_jp/)

### みんな熱い思いで集った 憲法九条土浦の会1周年



3月19日午後 3月19日午後 憲法九条土浦の会1周年のつどいが、市内のワークヒルにおいておこなわれました。

知ってっかーおめー。ここ日本のでーらはよー、どっかの国で戦争おっばじまっても、そごさ行ってぶぎ使っていざこざまどめるとなんちゃでぎねーんだがんなーおめー

劇団「創造市場」の演出家萩野谷さんの“茨城弁の憲法九条”で始まったつどいは高校生や被爆者、残留孤児帰国者、町のパン屋さんなど8人のリレートークに続いてメインゲスト成嶋さんの講演「いま憲法が変えられたら」が、戦後の憲法を

変えようとする歴史的背景や内外の情勢、自民党改憲案の問題点などについて詳細な分析資料をもとに1時間を越える熱弁で語られました。少し難しかったかなという感想もありますが、詳細なレジュメは大いに活用できると思います。最後は「生協」のシンガーソングライター橋本実さんのリードで「あの日の授業～新しい憲法のはなし～」をみんなで歌って閉会となりました。参加者は会場一杯の230人でした。

### 土浦平和の会'06年総会のお知らせ

とき 5月13日(土) 午後1時30分～

ところ 四中地区公民館(予定)

お誘いあってご出席ください

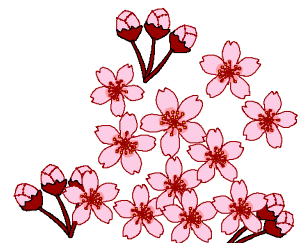
総会議案検討中です。ご意見があればお知らせください。

私たちの会費が日本平和委員会と茨城県平和委員会の活動を支えています

随想

## 終りの始まり（その2）

小笠原 徹



人が為（な）すことを人為という。「人」と「為」を併せると「偽り」の字になる。所詮「人為」と「偽り」は“終りの始まり”という時間的宿命からは逃れられない。人間が作ったものは百パーセント利害得失を伴うものである。

数年前「雅子さまは精神的に御疲労」の報道がされた頃、私は友人に「これは天皇制の終りの始まりの兆候である」と話した。

さて、三笠宮寛仁氏は「万世一系の天子様の伝統を守る」などと発言している。（土浦平和の会ニュース No161参照）が、これらの階級の人々の談義の中では、幾組の神聖家族を雛壇に並べるつもりなのか？ 万世一系と称する「繕い」を繰り返してきた人為的機構が作り出した数千万人の戦争被害者を想起すると肌寒く慄然となる。

キリスト教の「聖家族」に模した如き社会的装飾の補修のために庶民の涙をこれ以上流すことは願い下げにしたい。

この二十一世紀を日本民族の「終りの始まり」とすることは避けなくてはならない。私たち民衆は、法律という壁で仕切られた迷路や明治憲法時代の詔勅に類するものには絶対に囚えられることなく自然人としての感性をすべてに優先させたいものである。

「女帝」とか「男帝」とかの論議は“ジェンダー（性）”の見方を離れて、神道の（聖）の見方にも根を下ろしているのである。これは世界の数千年の歴史の厳然たる淘汰の原則に逆らうものであり、どのような性染色体の配合を画策しても、生物学的な原理からは脱出できない。

つまり“さざれ石の苔のむすまで”の御代の神聖家族の永久性は「天」の下には存在できないのである。「人為」の中にある「偽り」には「終りの始まり」が付きまとうのである。

歴史と時間の中に於いては、何が語られても所詮「帝（みかど）」にまつわる寸劇と喜劇、悲劇のストーリーにすぎないのである。時間の大河に流される泡沫である。

二月十一日、百里平和公園では百里稲荷初午祭りが行なわれている。

\* 九条を飛ばす二月の鶴（こうのとりの）

\* F15 お腹の赤ちゃん震えてる

（'06年二月十一日 記）



## 活動ごよみ

3・19 憲法九条土浦の会結成1周年のつどい  
3・23 県平常任委員会（水戸市民会館）  
3・27 城南病院平和学校（土浦・阿見基地見学）  
4・13 平和の会理事会（神立コミセン13時）

5・13（木）13:30～ 平和の会総会  
（四中地区公 予定）